

# 業務の新聞

第49号 2019年 12月 22日

## あなたならどうしますか？

ある『事象』が発生して、その“処理”をめぐる「支社△△課と話をするのに〇〇届を書いてもらわないとダメなんだよね」とか「悪いようにはしないから〇〇届は書いて欲しい」などと“職場管理者”から言われたら、「あなたならどうしますか？」

日々の業務の中で様々な『事象』が発生します。発生した『事象』は職場から支社に迅速かつ正確に報告することになっています。そして原因を究明し、より現実に即した対策なり改善なりが実施されるのが現在の東京支社のマネジメントの基本姿勢であると私たちは理解をしています。

ここで「？」です、“現場管理者”は「支社△△課と話をするのに〇〇届が必要だ」と言うがホントなの？それも「悪いようにはしない」というコメントをつけてまで…。

皆さん！この現場と支社との関係性をどう感じますか？社員に対する“現場管理者”の接し方はどう感じますか？

会社総体で、コミュニケーションとマネジメントを『検討する』必要を強く感じます。労働組合として支社に対して問題提起を行い、より良い職場・会社を創造するために取り組みを展開します。

## サービスレベルダウン？

車イス対応や遺失捜索対応などでの『サービスレベルダウン』について支社に対して問題提起を行いたいと考えています。乗換や支社跨り・連絡体制、要員体制、業務委託、設備・備品など多くの切り口が職場には多くあります、声を聞かせてください！

## 3月ダイヤ改正

2020年3月ダイヤ改正について『プレス発表』され、各自のタブレットにもその内容が送信されました。

会社資料によれば、改正日は3月14日で、東北・北海道新幹線や上越新幹線の利便性向上、首都圏発着する特急列車の利便性・快適性向上を中心としたダイヤ改正だということです。加えて、東日本大震災の影響により運転を見合わせている富岡～浪江間は2019年度末までに全線での運転再開を予定しているとしています。

東京支社にかかわる内容では、

- ①高輪ゲートウェイの開業
- ②中央線快速線及び中央・総武緩行線の早朝・夜間帯の輸送体系変更
- ③特急「踊り子」にリニューアル車導入
- ④湘南ライナー両数変更
- ⑤特急「成田エクスプレス」の運行体系見直し
- ⑥在来各線区の利便性向上、表定時分の見直し、採時駅の見直し、遅延対策などとなります。

労働組合には支社からの提案はまだありません。

多くの運転職場では『ダイヤ検討委員会（仮称）』が設けられ、担当線区のダイヤ検討をしているそうです。社員の声を施策に反映するために業務を担うベテランとして「ドシドシ」と問題提起していきましょう。「職場でのコミュニケーションは双方向が基本である。」と支社の基本姿勢が示されています、働きかけをお願いします。

地本は支社からの提案に対して各分会・組合員の声をもとに安全・安定・快適を実現するための問題提起を行い現実的課題の解決を目指します。